

4 生徒が考え気付く授業

学ぶ喜びが実感できる授業

「知る」が「分かる」になり、納得に至る。「なるほど！」と心にストンと落ちる（納得する）分かり方をしたときに、生徒は学ぶ喜びを感じます。

では、どのような授業で、生徒は学ぶ喜びを感じるのでしょうか。分かりやすく丁寧に教えたとしても、それが一方的な教え込みだとしたら、生徒の内面に揺さぶりを掛けることは難しく、生徒の心の中に落ちてはいきません。生徒自身が課題を見だし、解決し、学ぶ喜びを感じる授業を目指していきましょう。

生徒が「考え」「気付く」授業とは

「どのような力を身に付けるために学んでいるのか」という、授業の目的を生徒に伝えることが大切です。目的を知ること、生徒は学ぶ意義を感じることができ、意欲も高まることでしょう。

こうした生徒自身が「考え」「気付く」授業を実現させるためには、生徒の実態を踏まえて教材を用意することや、生徒が自ら考えるための時間を確保することが大切です。

「分からない」と言える授業

授業中に、生徒が「分からない」と言える授業を心掛けましょう。誰にでも苦手な教科・科目があります。分からないことを共有し、生徒同士の協働によって解決することで、一人の「分からない」が皆の「分かった」になることでしょう。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

個に応じた指導を！

本人の努力ではカバーできない領域があることも押さえておく必要があります。個に応じた課題など、生徒が自分の能力に応じて学べるようなカリキュラムの工夫が必要です。

目標はスモールステップで！

「ちょっとがんばったらできたよ」そのような思いや経験が大切です。達成感が次の意欲へとつながります。

目標はスモールステップで考えていきましょう。


 目標

生徒の実態に応じた授業づくり

生徒が「考え」「気付く」授業をつくるために、生徒の実態を適切に捉えること、その実態に合った活動を組み立てること、十分な活動の時間を確保することが必要です。

生徒の活動の様子を想定して準備しましょう。 → 2章－5～10

「生徒の実態に応じた授業づくり」チェックリスト

【課題づくり】

- 生徒一人ひとりの理解度や意欲の把握をしているか。
- 学ぶことの有用性や必然性が感じられる教材や課題となっているか。
- 達成感が得られる、知的満足度の高い課題か。

【展開の工夫】

- 生徒の興味や関心、知的好奇心を呼び起こすような仕掛けがあるか。
- 問題の発見・解決といった学習活動を取り入れているか。
- 生徒の考えを広めたり、深めたりする発問を準備しているか。
- 生徒が考える時間を適切に確保しているか。
- 生徒が自分の考えを表明し、振り返ることができる場面があるか。
- 思わず「なるほど!」と感じられる「授業の山場」はあるか。
- 生徒の良い面を引き出す場面があるか。
- 学習につまずいている生徒に対して、適切な支援を行っているか。

動機付け

「楽しいからやってみたい」「気になるから解明したい」「苦手を克服したい」という生徒自身の好奇心や関心がもたらすモチベーションを、「内発的動機付け」といいます。「やらないと叱られる」「テストで高得点を取れたら〇〇がもらえる」といった、義務や賞罰など学習以外の要因がもたらすモチベーションを「外発的動機付け」といいます。

主体的な学習を促すためには、効果的な動機付けが必要です。中でも、継続的な学習につなげるためには内発的動機付けの方が望ましいとされています。